

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	山口県	事業実施主体	山口県、萩市	地域再生計画名	人と海と歴史をつなぐ賑わい創出計画～はぎみなど維新プロジェクト～
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	山口県土木建築部長、萩市長		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価			
		基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	玉江漁港整備による漁業従事者の減少緩和（漁業従事者の年間減少者数）	46人/年減少	H20-H25平均	41人/年減少	H26-H30平均	35人/年減少	41人/年減少	H26-H30平均	35人/年減少	○	5	1	漁業関連の支援事業を行ったことで、漁業従事者の減少緩和に一定の効果がみられ、目標を達成した。
	指標 2	萩港整備による離島航路利用者の減少緩和（離島航路利用者の年間減少者数）	5,450人/年減少	H22-H26平均	4,900人/年減少	H28-H29平均	164人/年増加	4,900人/年減少	H28-R2平均	6,523人/年減少	△	5	1	新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響により、目標達成に至らなかった。
	指標 3	萩港整備によるクルーズ船寄港回数の増加	8回/年	H27	9回/年	H30	11回/年	10回/年	R2	0回/年	△	5	1	新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響により、目標達成に至らなかった。
	指標 4	萩港整備による観光客数の増加	2,301千人/年	H26	2,450千人/年	H30	2,378千人/年	2,500千人/年	R2	1,673千人/年	△	5	1	新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響により、目標達成に至らなかった。
	指標 5	玉江漁港整備による属人漁獲量の増加	270t/年	H24-H26平均	270t/年	H30	175t/年	300t/年	R2	99t/年	△	5	1	新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響により、漁獲物の需要が減少し目標達成に至らなかった。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	指標 2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価									
		計画	中間年度(H30)	最終実績										
特別措置を適用して行う事業	港湾整備事業（港湾施設） 岸壁 物揚場 道路 可動橋 緑地	260m 455m 1,325m 1基 1式	222m 455m 1,161m 0.8基 0.9式	260m 455m 1,161m 1基 1式	地方港湾における施設整備の推進を図るため複数の港で事業を実施し、萩港後小畑地区道路については現地精査の結果、損傷が軽微であったことから改修を取りやめたものの、事業効果の高い施設については優先的に整備し、一定の成果があったものと考えている。									
	漁港整備事業（漁港施設） 防砂堤	70m	70m	70m	計画どおり整備が完了した。									
その他の事業	もうかる漁業創出支援事業	「玉江浦いかつり船団有限責任事業組合」を設立し、経営基盤強化を目的に共同操業や漁獲物の加工、共同販売（移動販売）に取り組む、生産の効率化や、収益の安定確保を目指す			漁業従事者の減少を抑制するため、操業方法の効率化や漁労装備の高度化、さらには6次産業化への取り組みを支援し、漁業従事者の収入の安定化や作業負担の軽減等を行った。									
	阿武萩地区 水産環境整備事業	当該地区における主要な藻場は、岩礁帯に広がる「アラメ・カジメ場」及び「ガラマ場」であり、特にアラメ・カジメ場の衰退が問題となっている。漁業者の手により既存藻場の保全活動が行われており、一部の範囲を除き「磯焼け」には至っていないが、藻場が衰退している現状に鑑み、ハード事業の導入による藻場面積の拡大を図る、当該地区の藻場の衰退は、ウニによる食害が主要因と考えられており、ソフト対策として現在、各支店において、ウニの除去等による密度管理を実施、また、ウニの食性が低減した海域において、新たな基質を設置するとともに、当該基質への遊走子の着床を促進し、「核藻場」を形成させるため、石材による着床基質群の中心に、藻場ブロックを設置し、藻場造成を促進			属人漁獲量の増加のため、藻場の衰退防止や拡大への取り組みを支援し、海洋環境及び水産資源の保護を行った。									
	萩まちじゅう博物館構想の推進	萩のまちを覆わない広い博物館「まちじゅう博物館」と見なし、萩の魅力を再発見し、「萩のおたから」を守り育て、次世代に伝える新たなまちづくりの取り組み			萩市内の各所にある文化財等の保存や展示を行い、この地域を訪れる誰もが萩の歴史に触れられる環境を創出することで、観光地としての魅力の向上及び観光客の増加に向けた取り組みを行った。									
	農山漁村民泊の取り組み（萩市農山漁村交流プロジェクト）	観光事業と連携し、第1次産業の資源を活用して都市と農山漁村の交流事業に取り組むことを目的として、「萩市ふるさとツーリズム」を推進			地域の主要産業である農林水産業を体験する機会を設け、民泊を活用した訪日外国人や修学旅行生の受入れを行うことで、都市と地方の交流を促進し、観光客数の増加に向けた取り組みを行った。									
計画外で独自に実施した事業	—	—			—									
④評価方法	山口県土木建築部評価システム検討委員会及び萩市港整備交付金事業委員会を開催し、達成状況の評価・検討等を行った。													
⑤事後評価の公表方法	山口県のホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生港整備推進交付金を活用した港湾と漁港の一体的な整備により、地域産業の基盤強化による漁業従事者の減少抑制や観光客数の増加等を目的としており、施設整備については概ね全て完了した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響により、事後評価時点では各指標の数値が急激に悪化した。今後は感染症の終息とともに各指標の数値も回復し、施設の整備効果とも併せて地域の活性化に寄与していくものと考えている。													
⑦今後の方針等	本計画においては、概ね計画どおりの施設整備が完了し、利用者の安全性や利便性の向上が図られ、地域の活性化に寄与していくものと考えている。													